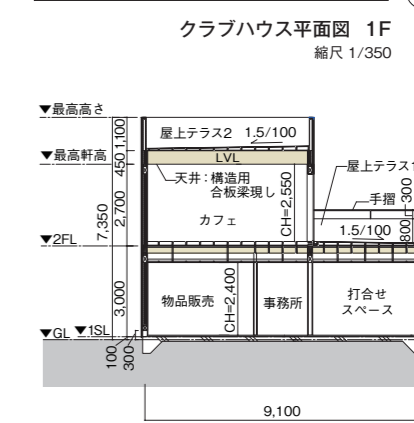
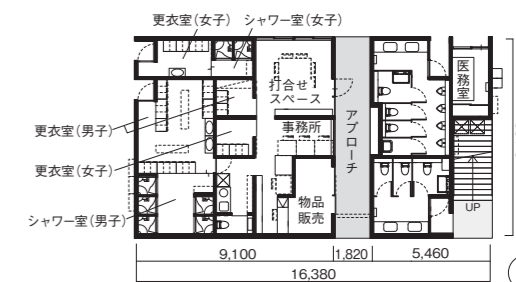
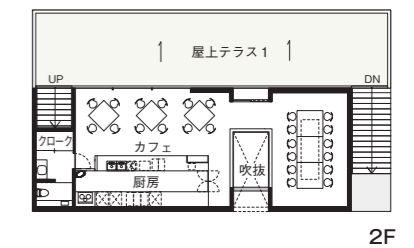
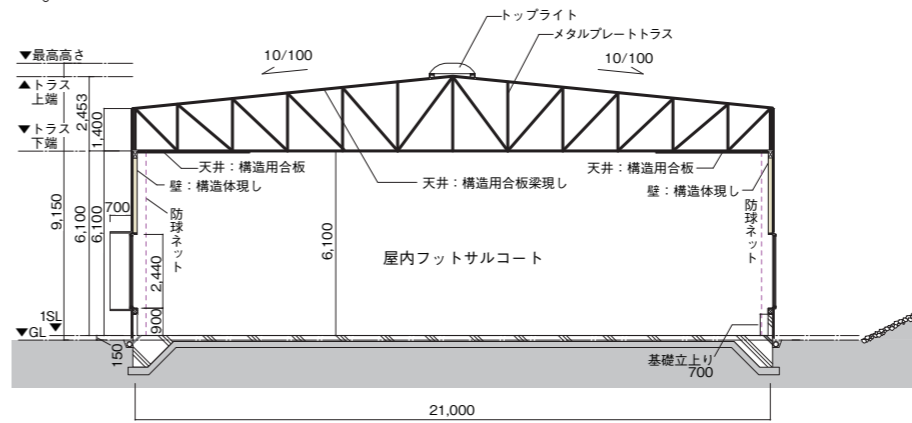
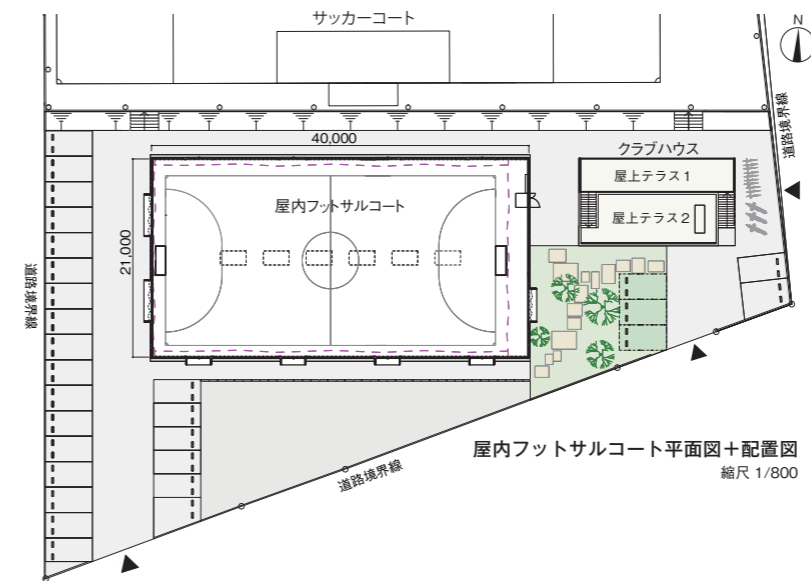


スポーツ施設

Sports Facility



「垂井をサッカーの街に」という夢を掲げる地元企業により、全国に8カ所ある系列スタジアムのなかでも規模が大きく、独自性の高い整備が行われた「キャプテン翼スタジアム 垂井」。手前左側の建物が屋内フットサルコート、右手が更衣室、カフェ等を備えたクラブハウス。「木造のスポーツ施設は、山に囲まれたこの地域になじむ質感になっている」と設計者は語る。クラブハウスの屋上テラスは1階上と2階上にあり、奥のサッカーコートを一望できる。2階のカフェへは屋上テラスから入る設計になっている。



内部に構造躯体を現した ツーバイフォー 2×4のフットサルコート

岐阜県不破郡垂井町に2018年に開設された「キャプテン翼スタジアム 垂井」は、地元企業の事業主が自社用地の有効活用策として児童育成や社会人の交流を目的とした地域貢献の場として整備した施設です。敷地内にはサッカーとフットサルの屋外コートに加え、ツーバイフォー工法による全天候型の屋内フットサルコート(約840㎡)とクラブハウス(約208㎡)があります。当初、事業主には「屋内型のスポーツ施設は鉄骨造でしか建てられない」という認識があり、工期・コストの問題から建設が断念されかかっていましたが、「ツーバイフォー工法ならばコートに必要な大空間も可能で、工期短縮・コスト削減を図れる」と設計者より提案を受けて計画が再開され、竣工へと至りました。

屋内フットサルコートは金属プレートトラスにより21m×40mのロングスパンが実現しました。実例集に紹介されていたツーバイフォー工法による木造倉庫のダイナミックな姿が事業主に評価され、内部空間は構造体現し仕上げが採用されました。また、木造ゆえに「猛暑でも屋内は涼しく、スポーツをする環境として快適です」と利用者からの声がありました。一方、クラブハウスは屋上テラスの強度を確保するため2階天井にエンジニアードウOODのLVLが用いられ、屋内フットサルコート同様、木の構造体自体がデザインとして活かされました。



屋内フットサルコートは21m×40mの大空間。内部は構造体の現しで、窓やトップライトから自然光を取り入れている。下弦材の間に照明器具が設置されている。

クラブハウス2階のカフェの厨房。屋上テラスの強度を確保するLVLが天井にそのまま現されている。

■屋内フットサルコートの建設過程



屋内フットサルコート(左側)の入口はクラブハウス(右側)との間を進んだところにある。クラブハウス内にはサッカーコートへと抜ける、吹き抜けのアプローチがつくられているため、動線がスムーズ。



野地板の施工/トップライト取付け用の下地もパネル化して搬入、施工。

物件概要		キャプテン翼スタジアム 垂井	
所在地	岐阜県不破郡垂井町	敷地面積	12,460.88㎡ (3,769.42坪)
用途	スポーツ施設 (屋内フットサルコート、クラブハウス)	建築面積	985.75㎡ (298.19坪)
構造	枠組壁工法	延床面積	1,048.68㎡ (317.23坪)
規模	屋内フットサルコート(平屋) 840.00㎡ クラブハウス(2階建て) 208.68㎡	事業主	株式会社 野田クレーン
		全体プロデュース	安井秀夫 (愛知工業大学工学部建築学科教授)
		設計	佐々木勝敏建築設計事務所
		施工	生和コーポレーション(株)
		構造設計・建方工事	三井ホームコンポーネント(株)
		工期	2018年5月～2018年9月
		用途地域	第一種住居地域
		建築条件	建蔽率60%、容積率200%、法22条区域